

IPU-37

開学10周年
記念号



「10年後、この大学に通っているかも」
未来の20期生になるかもしれない、
7名がキャンパス見学に訪れました。
春めいた日差しを受けて
1期生、10期生らと記念撮影。
世代を超えて絆を育むコミュニティー、
それがIPUという学びの場です。

世代を超える絆

【人事情報】

退任 [平成20年3月31日付]	
理事長	市川 喜紀
就任 [平成20年4月1日付]	
理事長 (前岩手県教育委員会教育長)	相澤 徹
退職 [平成20年3月31日付]	
副学長 (盛岡・宮古短期大学副学長)	船生 豊
看護学部/助教	伊関 敏男
看護学部/助手	笠井輝代子
看護学部/助手	武田 晶子
看護学部/助教	小山ゆかり
社会福祉学部/教授	零石 礼子
社会福祉学部/教授	中里 克治
社会福祉学部/准教授	小野澤章子
総合政策学部/教授	三浦 黎明
盛岡短期大学部/准教授	キャロリン・マリエ・エヴァンス
盛岡短期大学部/助手	河野 紗代
採用 [平成20年4月1日付]	
看護学部/助手	原 瑞恵
看護学部/助手	田中 有紀
看護学部/助手	及川 紳代
社会福祉学部/講師	田中秀一郎
社会福祉学部/講師	佐藤 匡仁
社会福祉学部/講師	山田 幸恵
ソフトウェア情報学部/講師	窪田 諭
ソフトウェア情報学部/講師	今井信太郎
宮古短期大学部/講師	神谷 厚徳
研究・地域連携本部/准教授	丹野 剛紀
転出 前職 氏名 [転出先]	
総務財務室 (管財契約) / 主査	川村 浩幸
[宮古地方振興局岩泉土木事務所 / 主査]	
総務財務室 (管財契約) / 主事	泉山 道吾
[岩手県立二戸病院 / 主事]	
総務財務室 (予算経理) / 主事	小畑菜奈子
[宮古地方振興局企画総務部 / 主事]	
教育・学生支援室 (学生支援) / 主事	逸山 恵理
[医療局職員課 / 主事]	
教育・学生支援室 (教務) / 主幹	細川 幸喜
[総務部総務室 / 主任主査]	
教育・学生支援室 (健康サポートセンター) / 主任保健師	海上 長子
[教育委員会事務局教職員課 / 主任保健師]	
教育・学生支援室 (入試) / 主幹	鈴木 雅博
[総合政策部調査統計課 / 主任主査]	
研究・地域連携室 / 研究課長	高橋 喜勝
[商工労働観光部科学・ものづくり振興課 / 科学技術担当課長]	
研究・地域連携室 / 主査	小野寺重男
[地域振興部地域企画室 / 主査]	
宮古事務局 / 主事	佐藤 友善
[農林水産部団体指導課 / 主事]	
転入 所属・職 氏名 [前職]	
総務財務室 (管財契約) / 主査	中澤 洋二
[宮古地方振興局企画総務部 / 主査]	
総務財務室 (予算経理) / 主事	高家 佳織
[大船渡地方振興局土木部 / 主事]	
総務財務室 (管財契約) / 主事	安達さおり
[盛岡地方振興局保健福祉環境部 / 主事]	
教育・学生支援室 (学生支援) / 主事	中村 健二
[県南広域振興局花巻総合支局土木部 / 主事]	
教育・学生支援室 (健康サポートセンター) / 上席看護師	平 栄子
[県南広域振興局一関総合支局保健福祉環境部 / 主任看護師]	
教育・学生支援室 (入試) / 主幹	佐藤 博行
[岩手県東京事務所 / 主任主査]	
研究・地域連携室 / 主幹	石田 知子
[商工労働観光部科学・ものづくり振興課 / 主任主査]	
研究・地域連携室 / 主幹	澁谷昌二郎
[釜石地方振興局保健福祉環境部 / 副主幹]	
宮古事務局 / 主査	山崎 亨
[宮古地方振興局土木部 / 主査]	
採用	
総務財務室 (人事給与) / 主事	八木かずみ
総務財務室 (人事給与) / 主事 (ソフトウェア情報学部事務室)	及川枝美子
総務財務室 (人事給与) / 主事 (総合政策学部事務室)	吉田 香織
総務財務室 (職員福祉) / 主事	藤根 卓也
教育・学生支援室 (学生支援) / 主事	川崎 紋
教育・学生支援室 (教務企画・留学生交流) / 主事	長沼 奈奈
教育・学生支援室 (就職支援) / 主事	高橋 純子
教育・学生支援室 (図書) / 図書専門員	佐藤 千枝

サークルで 元気者 番外編 中央委員会の巻

仲間よ、あつまれ



私たち中央委員会を一言で表すと「まとめ役、お世話役、あるいは縁の下の力持ち」です。さまざまな責任を果たしたり、人の役に立てたりすることにとっても遣り甲斐があります。中央委員会は学生による、学生のための活動に幅広く取り組んでいます。

新入生歓迎会・七夕祭・夢灯り、といったイベントの企画と実施。学生会費の分配・運用。そして学生会誌などPRメディアの発行、みんなで共有する物品の管理と貸し出し…。メンバー全員が1、2年生という新しい体制で2008年度に臨みます。定例ミーティングは週一回18:00ころから、学生ホール棟3階・学生会室で行います。

■代表 / 菊川由里江 = 総合政策学部2年

IPU Festa 通信④ 秋へ向かって走り出す

慌しい年度替わりを控えた春休み。実行委員会は、もう秋へ向かって動き出している。2008年度、開学10周年の「IPU Festa」は10月25・26日の開催と決まった。平井啓介 (総合政策学部2年) が、2年続けて実行委員長を務めることに。3年生のメンバーは、就職活動の合間を縫ってミーティングに駆けつける。1、2年生も一大イベントへ取り組むモチベーションを、おのおの高めているようで頼もしい。4月になれば、新入生の顔ぶれが加わるだろう。

大学祭は、みんなで創り上げるもの。日頃から報告・連絡・相談を徹底し、さまざまな情報を共有しよう。学内外との連携を深めることも大切だ。こうした機会を通し、協調性や社会性が培われるような気がする。



編集後記

ここに開学10周年記念号をお届けすることができました。今回は各本部長 (職名は当時) が次の10年に向けたビジョンを語っています。岩手県立大学は人間に例えるとまだ10歳。これから20歳の成人に向けて、大きく成長していくときです。「IPUに言いたい」では多くの方からメッセージをいただき、その一つ一つから本学への期待が伝わってきました。これからも県民の大学として、在るべき姿をめざしてまいります。

(斎藤)

IPU-37

発行 / 2008年4月1日
公立大学法人
岩手県立大学
経営企画室
〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字集子152-52
TEL / 019-694-2005・FAX / 019-694-2001
URL / http://www.iwate-pu.ac.jp/ e-mail / management@ml.iwate-pu.ac.jp

10周年。 思いを一つに、 走り出す時

めざすのは夢のある大学、
いくつもの物語のある大学です。
開学から10年の歩みや成果を踏まえ、
これからの大学づくりについて
3人の本部長が語り合いました。



「素心知園」に帰せよ

佐々木 次のステップへ羽ばたくため、
どんなポイントが挙げられますか。
細江 学生一人一人の学習意欲に、ど
のように応えながら自己実現をサポート
していくか。こうした観点で教育・学生
支援の充実を図りたいですね。学びの場
としての魅力づくりを通し、大学の存在
感を高めていきたい。
佐々木 より大きな効果を引き出すに
は、タイムリーでインパクトのあるアイ
デアを実行する必要があります。組織運
営にも革新性が求められます。
伊藤 ささまざまな研究成果の還元と地
域貢献に関しては、これまで以上に地域
や産業界との接点を増やして「身近で社
会に役立つ大学」をアピールする決意で
す。だからこそ、どんな大学像を描くの



大学改革推進本部長
佐々木 民夫

か、という目的意識を全学で共有したい
ものです。さらなるフロンティア精神に
火を付けましょう。
佐々木 今こそ、私たちの大学の原点へ
と帰すべきなのかもしれません。次代
に向かうエネルギーは、そう強く自覚す
ることで生まれると思います。開学から
唱えられてきた「素心知園」は「己を知
り、ほんとうに望むものを追求すること
が真の自分に近づく道筋である」と説く
普遍的な教えです。すべての道は、ここ
から発している…と私は確信を深めてい
ます。
伊藤 開学した頃、何もかも初めてと
いう状況での熱気や行動がリアルに思い
起こされます。私なりに感じたままを言
うなら、誰もが必死でした。素心知園
の精神を活かし、この先も、いろいろな
風を起させるはずですよ。

学びたい、に伝えたい

伊藤 学部・短大での教育とともに、
たとえばシニア層を対象とする生涯学習
の場という役割を担う。地域の大学とし
て、これも一つの道筋です。
細江 県民のために、という観点で広
範な層の学習ニーズに応えたいですね。
学部・大学院を問わず、社会人の受け入
れも積極的に進めます。
佐々木 「大学が、こういうことにも取
り組むんだ」と感じてもらえるような発



想の転換、斬新な行動が必須です。アイ
ナキャンパスや県内各地に場と機会を求
め、教育と研究に関する学内資源を地域
との共有財産に…
細江 土曜、日曜、もしくは夜間の開
講など工夫の余地は広がります。
佐々木 eラーニングなどを学びに取
り入れるメリットは、いかがですか。
伊藤 離れている場所と場所をリアル
タイムに結ぶ、といった点がITとネッ
トワークを使う利点です。専門性のエキ
スと新規性に富む教材・コンテンツを開
発すれば、時代の感覚に沿う効果的な学
びのスタイルを提供できます。

教育力も研究力も

佐々木 中国や韓国から来日した学生が
キャンパスの顔ぶれに加わっています。
留学生の受け入れ拡大は国際化に、ど
う対応していくのか。これも大きなテ
マに挙げられます。
細江 学部も大学院も国際化は必然の
流れです。カリキュラムへの反映を含め
グローバル化を捉えて大学運営を考える
べき時代です。たとえば留学生の就学環
境づくりに関して、他大学との協働も進
めて資金の活用、具体的な方策が検討さ
れて良いと思います。大学間交流に、国
際化への対応という共通課題も明確化す
べき段階だと私は受け止めています。



前 教育・学生支援本部長
細江 達郎

伊藤 ささまざまな課題の解決に向け
て、地域に根ざす大学同士の結びつきが
現実味を帯びてきます。盛岡大学・岩手
大学・岩手医科大学・富士大学と歩調を
合わせ「学生のため、地域のため」と視
点や目的意識を定めると、いろいろな方
策が可能です。

みんなで描く大学像

佐々木 「地域」を、どう捉えるか。そ
れによっても教育・研究の方向性と内容
が変わってきます。私たちの地元は岩手
ですが、ここ岩手は東北各地・日本各地
さらに世界各地ともつながっている。つ
まり、ローカルな視座では完結し得ない
社会の姿や変容ぶりが実践指向の学問の
対象で、広い視野と柔軟な頭脳が不可欠
です。

伊藤 地元を軸足を置きつつ、世界を
指向する学風が培われています。
佐々木 ささまざまな形でニーズへ応え、
地域貢献を根づかせましょう。グローバ
ルな方向性も掲げながら、学風の深化を
促し続けたいですね。社会との接点を増
やすため、ビジョンを共有して一体感を強
めなければなりません。そして自立的に

歩む大学像が日々、あらたに描かれる…。
学生と教職員のマインドが融合して未来
へ結実すると信じています。
伊藤 たとえば産学連携の観点で、I
T企業やメーカーの知恵袋のような存在
でもありたい。研究やプロジェクトに際
しては、新規性や有用性を求めてテーマ
意識を明確に。そして戦略的・組織的に
成果を追求します。

細江 これまでの卒業生は、およそ5、
500人に上ります。たくさんの人材を
各界へ輩出してきたと思うと、感慨深い。
有為な人材を育てることが何よりの社会
貢献である、と思います。学業に課外活
動にと、意欲的な学生の姿が印象的で
す。そうした真摯さを、きめ細かくサ
ポートするのが私たちの務めです。進
路指導も含め、面倒見の良い大学であ
ることが存在意義の一つです。
伊藤 岩手における高等教育を担うI
PU。こうした期待感も、がっちり受け
止めたいですね。中学生・高校生へ向け
このキャンパスで学ぶ魅力をアピールす
る意義は計り知れません。
細江 豊かな教養と個性、独創性を養
う教育プログラムの推進に向け、高校と
大学は建設的な議論を深めるべきと思
います。お互いに現場を良く知ることか
ら、向学心に応える価値ある教育が生ま
れると信じています。

佐々木 高大連携の新しい形を求めつ
つ、斬新な発想で大学教育の可能性を切
り開きましょう。4学部・2短大を擁す
る人材育成拠点、IPUの真価が発揮さ
れるのは、これからです。



研究・地域連携本部長
伊藤 憲三



はじめのIPU

柳沢小学校
4年生
IPU探検記
[3月8日]

10年後は
県立大生!?

滝沢村・柳沢地区に住む子どもたちが
スタンプリーで大学探検にトライしました。
「IPUって、どんなところなんだろう?」
「どういう勉強ができるのかな?」
「コンピュータに触ってみたい」
それぞれ好奇心をふくらませ、
快調なペースでチェックポイントへ。
発見、驚き、楽しさ、語り…。
はじめてのIPUで、思い出している。



大学の概要を教わるため、
コンピュータの部屋へ移動中。



なんだかワクワクするなあ。
遠足の気分楽しんでおっ。



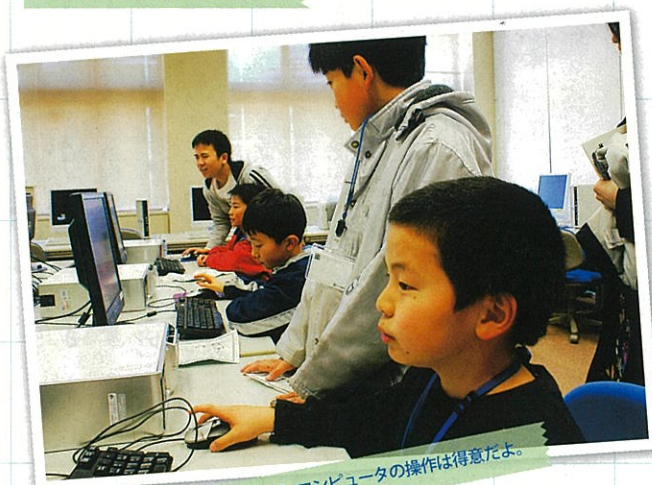
僕たち、メディアセンターの
図書スペースに到着なのです。



さあ、先を急がなくちゃ。
ところで体育棟の次は、どこだっけ?



たった今、学生食堂のチェックポイントをクリアしました!



もう学校で習っているから、コンピュータの操作は得意だよ。



女子チームと遭遇した。
ふだんの、教室の顔ぶれが揃ったぞ。



せっかくだから、ソフトウェア情報学部で
寄り道したい気分。



ねえねえ、総合政策学部へは
右へ行くの? 左へ行くの?



スタンプをボン。そういえば
男子チームは、どこへ行ったのかな?



ちょっとだけ、
余裕のポーズ。
「私たち、もう
迷わないもん」



ポカポカして
気持ちいい。
ラウンジの隅だまりで
寛いでいます。



ここは学校に例えると、教頭先生の
お部屋なんだって (副学長室)



予約席で「いただきます」。
お昼のメニューは、
ハンバーグ定食だ。



赤ちゃんのお世話について勉強。
それも、看護学部でできること。



大学教授の部屋。いろんな文学書や
「電車男」の本もありました。

fesmoも翔ける10周年

私たちは、開学10周年のPRモデルを務めるfesmoです。
昨年の大学祭で、
開学10周年のイベントとして開催された
「IPU Festa-Model [fesmo]」のコンテンツ。
グランプリに選ばれたのをきっかけに、
多くの皆さんと一緒に
この記念すべき節目を盛り上げていこうと思います。



左/佐藤 文美 [さとう・ともみ=総合政策学部3年]
右/尾無 徹 [おなし・とある=看護学部2年]

これまでの10年を礎に
IPUは、さらなる飛躍を期しています。
記念の節目を祝う式典ほか、
さまざまな観点で事業を実施。
未来への機運が高まっています。

■記念フォーラム
国際交流協定を締結している大学の学長ら
を招いてラウンドテーブル(記念式典に合わせ
て開催)

■記念植樹
幼稚園児・学生・大学関係者が「どんぐり」
を植樹

■10年の歩み
開学からの足跡をたどり、Web版・パンフ
レット版を作成

平成20年度 開学10周年記念事業 [予定]

■祝賀行事
記念式典
平成20年6月19日(木)に開催

■基金の設立
学生支援をより一層充実させるため、基金を
設立する

■地域・国際連携の観点で
第4回 岩手県立大学国際ソフトウェア
シンポジウム (5月28・29日)

■アジア地域開発・環境フォーラム
(10月17日/講堂)

■研究発表発表会
本学を会場に、研究成果や地域連携の成果を
紹介

■地域連携フォーラム
研究成果や地域連携の成果を紹介(沿岸地域
で夏期に開催)

■ETロボコン2008
第1回北海道・東北地区大会 (8月31日)

■教育・学生支援の観点で
岩手県立大学学生ボランティアセンター
の開設
学生のボランティア活動による、あらたな地

生活の質の向上を図るため、さまざまな地域
において人的・物的な資源を、いかにして結
集させるか。また、それらを活用する有効な
方策とは、どのようなものなのか。
アジアの各地域がその資源を結集させ、そこ
に住む多くの人々の健康、富、福に与える環
境をどのように維持するか、また、アジア各
国の地域社会経済を維持、発展させるために
必要な「健全な地域開発」についての展望と
経験を共有するため、各国から事例や課題を
発表するほか、ラウンドテーブルなど。

域貢献活動を支援する。ボランティアを希望
する学生、ボランティアを依頼したい地域団
体など、それぞれのニーズや声に応える窓口
の機能を持たせる。ボランティア系サークル
の学生が集まれる専用スペースは、メディア
センター棟に設置。一般学生も気軽に立ち寄
れるスポットとして、学生主体で運営する。

■学生の課外活動施設の整備
弓道場の建設など

■ホーム・カミングデー
大学祭に合わせ、卒業生が集うイベントを開催
(10月25日)

■各学部の取り組み
シンポジウム
「看護の連携―岩手看護の未来―(仮題)」
(夏期に開催)
シンポジウム
「がん医療における看護の役割」
教育における地域との連携
―実習・演習報告キャラバン―(仮称)
総合政策学部の実習・演習で調査・研究の
フィールドとなった市町村で開催

■宮古特別講座(仮称)
宮古市を中心とする三陸沿岸の地域の方が、
大学院レベルの高等教育の魅力と必要性への
理解を深める一助とするために開催

■総合政策学部10年の映像データベース作成
10年間の膨大な映像資料(学内外の行事・授
業風景学部紹介ビデオなど)を整理し、デー
タベースを構築

■慶尚大学校との
交流を振り返って
事業
交流10周年誌の作成
(国際文化学科・韓
国研修の10年の歩み
をまとめる)
交流10周年シンポジ
ウムの開催



看護学部・看護援助技術論Ⅰ「1年次・通年/必修」 ■清潔を保つための技術 さまざまな看護領域の基礎、 看護ケアを主体的に体感だ。



ケアを疑似体験

看護師に扮した学生が患者役の学生へ視線を送り、声を掛ける。
「お湯加減、力の入れ方、どうですか？
体勢は苦しくありませんか？」
たどたどしい手つきだが、心地よさを感じてもらおうと、一生懸命な様子が表れている。臨床でケアが行われる場面を想定、「清潔を保つ技術」と位置づけられる手浴や足浴の方法を習得するための演習である。



この他のメニューは清拭・洗髪・寝衣(和式)の交換、4、5名のグループに一つのベッドが割り当てられ、学生は看護師と患者、どちらの立場も擬似的に体験していく。

心地良い看護ケアとは？
そのために必要なことは？
講義、グループワーク、
そして実践的な演習を通して
看護過程の流れを習得。
みずからの看護観も拓く時間。

可されず、背中汗ばみに不快感を訴えている。

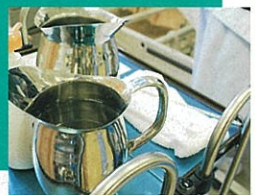
グループワーク

演習に臨む前段階として、学生はグループワークに取り組んだ。事例のアセスメントを行い、具体的な看護計画を立案するプロセスに関しても、あくまでも学生が主体性を発揮できるように、との配慮が一貫している。個人学習の成果を含め、さまざまな情報を共有して演習の段取りを決め、レポートを作成した。

日常の安全・安楽・自立に焦点を当てて取り組む。清潔ケアに重点を置く。演習の効果的な進め方、そして期待される成果を明確に。これらのポイントに沿ってグループ内の意思統一が図られた。また清潔ケアの意義、全身清拭などに関するビデオの視聴が事前に求められていた。

すべての目的意識的

「症状に即し、なぜ、どんな看護ケアを行えば良いのか。そういう意識づけを図り、実践の糧を得て欲しい」と思い



ます。こと細かに教え込むのではなく、内発的なマインドや行動を引き出していくのが私たち教員の役割だと自覚しています。こちらから思考を促す質問を発したり、感想を尋ねたりする場面も多く見られます」(基礎看護学講座/菊池和子教授)
この科目は、1年次の必修。感染症予防や心理的ケアという観点にも立ちながら、幅広い看護領域での実践の基礎を学び取る機会である。

看護の流れをトータルに把握して、患者の視点を重視する姿勢が育まれていく。「理論を詰め込むより、実際の動きを伴ったほうが技術を覚えやすいですね」と、足浴を担当していた男子学生は納得の表情だ。



温泉のバリアフリー

3月4日、狩野ゼミの一行は岩手網張温泉を訪れた。ケーススタディーとして温泉施設のバリアフリー対応、ならびに車椅子ユーザーなど障害者への配慮を調査するための。



ヒアリングシートに沿ってQ&Aを繰り返す。例えば浴室の手すり、椅子の設置状況について。話が進むうち、盲導犬は、浴槽の手前まで入れることを確認できた。介護士が常駐することも知った。また非常の際の障害者へのコンタクト方法、あるいは食物アレルギーを申し出た宿泊者への食事面の対応などにもスタッフの気遣いがうかがえた。さらに、きめ細かな配慮が施されたバリアフリールールも見学すること。

使う立場でチェック

すそ野が広い福祉の勉強は、身近な環境づくりとも深く結びついている。「ひとにやさしい」を考察すると生活者とモノ・家・マチとの、より良い関係が見えてくる。

車椅子ユーザーの役割を務めたのは南野陽子さん。「障害者や高齢者の視点で、温泉施設のバリアフリーを実証的に捉えよう」と卒業研究の構想は固まっている。工藤尚子さん、田村悠美さんが代わる代

わる付き添い役となり、館内を移動した。廊下、エレベーター、廊

下の順序で客室へ。座った状態なので視線は低い。手の届く範囲も限られている。スイッチや取っ手の位置を確かめたり、引き戸を開けて浴室への出入りを試みたり。狩野徹教授も周りに目を凝らし、ビデオ撮影に大忙しだ。

何かが見えてくる

盛岡短期大学部から編入した工藤さんは「高齢者のための住環境は、どうあるべきか」と、設計技術のイノベーションに即して関心を育てている。また「福祉は全ての人のために」という理念に共鳴して入学したのが田村さん。「子どもにとって望ましい遊び場のデザインとは？」という着想で、地域の公共財である公園の未来形を導こうとしている。

バリアを巡る思考は、人間とモノ・家・マチなどとの関係を問い直し、より良い環境を築く契機となる。「現場を知るのが問題解決の出発点です。介護福祉などベーシックな要素から派生する学際的な領域なので、いろいろな切り口が考えられます。絶対の答が存在しない点に、無限の可能性と究める値打ちを感じます」(狩野教授)

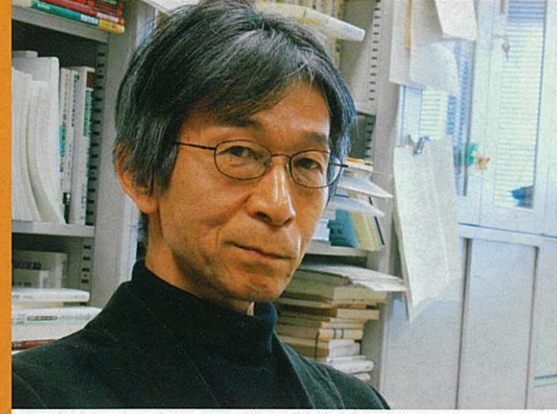


社会福祉学部 フロンティア福祉教育群
狩野ゼミ「福祉工学」
現場に学んで
もっと自由に、新しい学び。



生活者の声 地域が希望を培うヒントだ

社会福祉学部 福祉経営学科/教授 佐藤 嘉夫



時間が許す限り、現場へ出ようと欲する。調査・研究の基本は徹底してフィールドワークだ。主に足が向くのは中山間地ではるばる深い里へ行くのも厭わない。さまざまな地域で進行している現実が少子化、高齢化、過疎化、地域間格差の拡大など。老人世帯が増えるばかりで、やがて人が住まなくなるであろう限界集落。村も壊れる危機状況が日本各地で顕在化する内実にも、佐藤教授は迫ろうとする。

さまざまな事象を客観的・重層的に捉えようと、生活者の思いに込める福祉の在り方を考察する糸口が見えてくる。理論と実践を結び概念としての福祉サービス論を実証的に展開していく手法は、対象エリアに長らく暮らす人々との共同作業。そんな意味合いも帯びている。

「家族形態、普段の様子、そして生活観や心情など、いろいろ話してもらえます。幾度となく通っていると土地柄も分かるようになります。テーマ意識が触発されたり研究の焦点が定まったりすることが多いですね。このころ痛切に感じるのは、社会構造やシステムが変化するスピードに人間が対応し切れていないのでは、という矛盾めいたこと。これを巡る法律・制度・政策に携わる人たちとも共有したい、重くて大切な課題です」

一戸町・雲石町・岩泉町など自治体の支援を受け、学生とともに

に進めてきた調査実習でも、あまたの事実立脚する探究姿勢を説いていた。なにかと大変な時代だからこそ「あきらめない、立ち止まらない、現実を変えるアイデアは導ける」と、佐藤教授は希望を絶やさず。

さとう よしお

中央大学法学研究科・政治学専攻、上智大学文学研究科・博士後期課程・社会学専攻(社会福祉学)を修了。法学修士。会津大学短期大学の教授などを経て、開学から本学へ。担当科目は老人福祉論Ⅰ・生活構造論・公的扶助論・福祉サービス論ほか。日本社会福祉学会、社会政策学会、日本地域福祉学会に所属。

教える私・究める私

在ること、を認識する思考から始めよう。

盛岡短期大学部 国際文化学科/講師 熊本 早苗



くまもと さなえ
サンフランシスコ大学で社会学を修めた後、2003年9月、東北大学国際文化研究科・博士後期課程を修了。2005年4月より現職。博士(国際文化)。担当科目は国際文化理解演習・西洋社会論・西洋の文化と思想・現代女性論ほか。エコクリティシズム論集「新しい風景のアメリカ」(南雲堂・2003年10月)にも論考を寄せている。

「アメリカは、さまざまな意味で世界における大きな存在と言えるかも知れません。では、アメリカ的なるものとは何なのか。これだ、という答えは私にも、なかなか見つからないのです。しいて言つたら多民族・多文化という点でしょうか。こうした特徴に起因する、プラス評価できる点や内在する問題点を数多く見出せます。留学先で修めた社会学を足がかりに、私は、そういう国を捉える方法として文学を指向しました」

人間とは? 生きることとは? 社会の生成や進歩とは?

脳裏に渦巻く、いくつもの疑問や学的関心に応えるケーススタディー。その対象に選んだアメリカ文学から、多くの示唆と情報が得られる。

熊本講師は環境文学、エコクリティシズム(環境批評)を専門に研究している。生命を尊ぶ観点で、それらのバックグラウンドにエコロジーへのまなざしが注がれる。自然、大地とのつながりに立脚する表現のパラダイム。解題や議論の対象は、その時々々の社会状況や風景・思潮をモチーフに、時代との関係性を問うたり明らかにしたりした作品だ。

リアルに表出するのは、光と影を併せ持ち、果てしなく広がるアメリカ観。魅力は尽きないが、大国ゆえの苦悩を抱える。そうした二面性から離れられない実相をニュートラルに認識するのも、国際感覚を養う糧だ。熊本講師は、こう学生たちに説く。カルチャー・政治・女性の生き方・人種問題ほか、あれこれ着眼点を提示して「どうしてだろう? あなたは、どう思う?」と問い掛けるのは、主体的な思考を望むから。

じぶん時間

探究生活は、なお続く。

ソフトウェア情報学研究科/博士前期課程1年
リアルタイムシステム学講座・猪股研究室

伊藤 真梨子

した要素を包含する視点でシステムを捉え、実践指向を深めてきました。

情報社会に安心を

私の卒業研究、そのタイトルは「接触型媒体用セキュリティプロセッサSE P-7の開発」と言います。ようするに、個人認証を行うためのICカードを安全に使えるよう、汎用計算機能・セキュリティ機能を持つシステムを手がけたのです。こうしたノウハウが確立されれば、スキミングによる磁気カードの情報漏洩といった事態は起こらなくなります。

4月から大学院生

セキュリティプロセッサの開発は、試行錯誤の連続でした。研究室の先輩に聞いたり、文献で調べたり、あるいは東京大学の研究機関が主催するセミナーに参加したり。苦労が多かったけれど、個人プロジェクトが深化するような臨場感を味わえました。この分野の研究は、博士前期課程で続けます。そして就職するならば、LSI開発や組み込みソフトの分野で専攻を活かそうと思います。



学びイメージ

大学では、みずからの意思を問われる場面の連続です。テーマを見つけ、基礎的な学びを深め、その先へ。大学院の前期課程は、時代の先端を駆け足で進む感覚でしょう。さらに後期課程は、スピード感を高めて疾走する段階です。やがて社会の現場では技術やコストパフォーマンス、さらに市場性を追求するよう求められます。こうした流れをイメージしておけば、ソフトウェアの勉強に一貫性が生まれると思います。

実践を見据える

組み込みソフトと総称され、モノづくりに不可欠なソフトウェアの研究が主体です。家電製品や車、さらに産業機械などに搭載され、それらの機能をつかさどるソフトウェアへのニーズは高く、世界的な技術のトレンドと直結する内容です。即時的に機能すること(リアルタイム性)、正確に機能すること(信頼性)・データへの不正アクセスや改ざんに対処すること(セキュリティ性)。こう

IPUに言いたい

開学10周年特別編!

次の10年どんな飛躍を見せるか期待しています
【北上市/Y・M=49歳】

学生も教員も、もっと顔を見たいです。地域に出てきてください
【八幡平市/M・S=21歳】

日本とまではいかなくとも、東北有数のレベルの大学になって欲しい。社会に出て、胸を張って県立大の卒業生だと誇りたい
【盛岡市/K・S=21歳】

陸奥の賢大としての誇りを、奥州市・荒巖夷あらいみし
【39歳】

盛岡短期大学部の四年制学部への早期移行による、県立大学における人材育成のさらなる充実を期待したい
【盛岡市/F・T=66歳】

県立大学が国際交流の場となることに期待します
【北上市/T・T=46歳】

はばたけ岩手県立大学。はばたけ岩手
【盛岡市/カトちゃん=29歳】

県立大学の食堂の値段を安くするべき
【滝沢村/S・K=19歳】

濃い緑、濃い空気、濃い人間関係、濃いカリキュラム、濃い教授? の元で4年間学びました。これからも、ずっと「濃い」県大であり続けてください!
【盛岡市/M・S=27歳】

岩手県における有為な人材を育成する高等教育機関として、今後、ますます発展していくことを期待しています
【盛岡市/K・M=45歳】

岩手県立大学と石鳥谷の第二章が…今、始まる
【石鳥谷町/鳥谷丸=19歳】

恵まれた環境で目研鑽に取り組みたい学生がもっと増えることを期待しています
【盛岡市/ソウちゃん=54歳】

学生の可能性を引き出せるような学校になるよう期待しています
【盛岡市/森丘子=37歳】

新聞やTVで、さまざまな学生さんの活動を拝見します。「がんばっているな～県立大生」。どうかこれからも、地域に根ざして若いパワーを生かしてください! 期待しています
【北上市/いもたん=34歳】

県立大学が開学して記念すべき10周年の年に、自分が学生として迎えられることは本当に貴重なことだ。これも運命か? これから20年、30年と歴史を刻んでいく県立大学が今まで以上に学生とと大きく成長して、日本に、世界に名を広めてほしい。在学中に自分自身も通っていたことが誇りになります。開学10周年おめでとう!
【盛岡市/M・O=21歳】

「大長今」に、はまっています。いかに隣の国のことを自分は知らなかったのか、と痛感しています。国際理解ということは大変難しいですが、また大変重要なことでもあります。盛岡の先輩に倣って、滝沢や宮古から世界に向けて一つでも多くの橋が架かっていくことを願ってやみません
【宮古市/奥路節間=53歳】

「IPUに言いたい」は学外の有識者の方から寄稿をいただいておりますが、今回は特別編として、いろいろな方から開学10周年に寄せて、お声をいただきました。さまざまな提言、励まし、ご指摘、ありがとうございました。

息子が進学して3年が経とうとしています。全国の大学のパンフレットの中から選んだのが貴大学でした。本当に素晴らしい環境の中で充実した学生生活をおくらせていただきたいと思います。岩手県がすっかり気に入って、家族で毎年夏には観光と激励をかねて訪問しています。全国にはあまり知られていませんので、もっとPRしてもいいとおもいます。ドラマのロケ地にもなると思うのですが…。これからもますますの発展をいのります。【静岡市/S・T=50歳】

10周年だから…と一言で何か大きな事をやるのも、Xアプセンターの図書館を買い換えてほしいです。レポートや課題をこなすために参考文献を探すのですが、古すぎて使えないというケースが多々あります。「せつかく勉強しに来てほしい」と、よく思っています
【滝沢村/あむ=20歳】

名前の大きさは国立大学に負けていますが、レベルでは勝つていきたいと思います。これからもがんばりましょう(笑)
【宮古市/ジョン・マイケル・岡田=21歳】

地域社会に貢献する大学としての県立大を応援しています。学生時代には見えなかったことで、社会人になって見えてくるのがたくさんありました。世界や日本各地と交流を広げ、広い視野で岩手を見ることができると期待しています!
【山田町/T・S=34歳】

勉強ばかりでなく、たくさん仲間を作り、仲間を大切に。人として大切な思いやりを育て、社会に出てから、そういう人間を育てられるような学生を育ててほしいです
【盛岡市/Y=35歳】

県立大学の教職員は、県民にとって大きな財産であり、学生への教育のみならず、地域貢献を通じて存在を高めてほしいと考えます。特に自治体やNPO、地域団体など公共的な団体との連携、協力関係をより充実させるのが重要だと思います。大学からのアプローチは、地域の側から大学へ、という連携がより効果的だと考えます。10周年を区切り、「県立大」の実践のあり方を市民・県民とより深めるシンポジウムや公開講座の実施を期待します
【花巻市/K・S=58歳】

大学選びの大事な要素は「就職先の実績」だと思いますが、ホームページでの公開内容では、年度別の実績が分かりません。また更新の不備なのか、合併前の市町村名も見られます。直近の3年分ほどを公開すれば良いのではないのでしょうか
【盛岡市/hyde=29歳】

県立大学10周年記念
「秋田県秋田市/ソフトウェアのKAKOJUN、塚田玄=26歳」
岩手県立大学に「おーい」という感じで、どのくらい卒業生を輩出しているのか、どのくらい社会へ貢献しているのか、明確なビジョンを持って取り組むよう期待します
【盛岡市/A・S=40歳】

リアルな夢を育てられる場になってほしい
【盛岡市/M・S=21歳】

学生のボランティア活動など、地域社会への貢献には感謝しております。ただし教員の活躍は、もう少し身近で分かりやすい要素が必要ではないでしょうか。また職員は、可能な限り公共交通機関を利用するなど地域に溶け込んでいるでしょうか。10周年だから、という理由ではなく当たり前なこととして「見える、分かる」大学になってほしいです。広報紙は、大学に行かないと買えないのですか?
【滝沢村/近所の住人=66歳】

独法化したのですから、もって天竺山PROM可能では? 学術研究などによる地域貢献が行われているようですが、せつかく県民に身近なような活動(ボランティア、スポーツなど)で、学生の地域への存在感が薄いように思います
【紫波町/応援団=46歳】

在学生だけには、食堂の割引をしてほしいです。なんだかんだ言っても、栄養のバランスや量の割には高いです
【滝沢村/美男子=19歳】

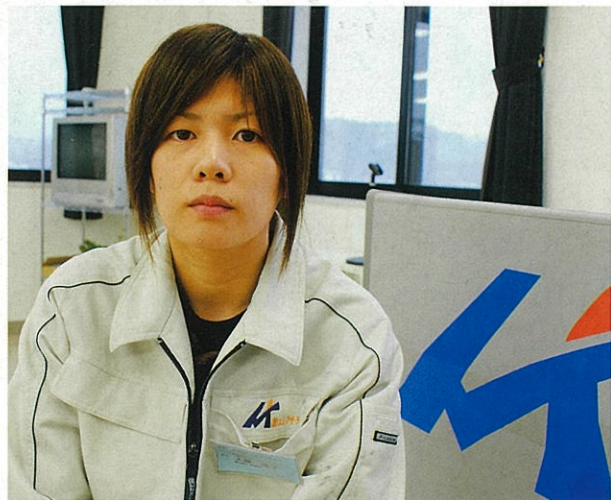
卒業生の県外就職が多いと聞いています。社会や経済の情勢にも拠るので、すぐの県内就職は無理でも、10年後や20年後に岩手へ戻って働く方々が増えることを願っています。県内の企業や行政に働きかけ、そうなるよう、ぜひ頑張ってください
【奥州市/しよっばい井=30歳】

キャリアの描き方

地元で、コネクタ製造工場勤務で職務に専心。

(株)エム・アイ・ティー東北工場 品質管理課 グループリーダー
工藤 雅子さん
宮古短期大学部・経営情報学科 [平成16年3月卒]

生まれ育った宮古に残って、モノづくりの現場でプロ意識を発揮する。そんな職業生活を過ごす工藤さんの職場は、宮古市の田鎖に。国道106号からほど近く、緑や田園に囲まれる一角だ。さまざまな電子機器に搭載される接続用パーツ、コネクタの製造ほか金型加工などを手がける誘致企業へ1期生として入社した。本社は横浜にあり、こちらは東北工場という位置づけだ。宮古地区はコネクタ産業の集積が著しく、この分野に特化した企業群は地域の活力源の一つに挙げられる。先端的な技術と関わる仕事に期待感を覚え、工藤さんはコネクタ製造工場への就職を決めたのだ。



新入社員の頃から、品質管理課で働いている。精密コネクタのサンプリング検査を行うセクションだ。顕微鏡や試験機器を用い、チェックの目を厳しく行き届かせる。もちろん、不良セロが大原則。「取引先から信頼を寄せたいための最後の関門」と自覚しています。出荷の可否に直結する業務なので、責任の重さを実感します。正確に、完璧に、と自分に言い聞かせて集中しています」

QC(品質管理)活動に率先して取り組んだり、改善提案で斬新なアイデアを発表したりするなど、とみに存在感が高まってきた工藤さん。モノづくりの奥深さを知るほどにステップアップが図られ、グループリーダーとしての言動に説得力が増している。

在学中は宮澤俊郎准教授のゼミに所属し、とりわけ日本的な生産システムへの理解を深めた。「ジャスト・イン・タイムに象徴される効率の追求が、サービス業はか多分野の業務改善に活用できるのか」と新鮮な驚きだったことが思い出されます」

学校に元気と幸せの種、蒔きます。

岩手県立西和賀高等学校 養護教諭
佐竹 麻衣子さん
看護学部 [平成19年3月卒]



廊下のほうで、ノックの音が響く。おずおずと保健室へ入ってくる生徒に「おーい、どうしたの?」と声を掛ける佐竹さんの目は、やさしく笑っている。叱った記憶は、ほとんどない。おもむろに話す内容に「うん、うん」と耳を傾け、それとなく励ましたりアドバイスを送ったり。担任との橋渡し役も体調が思わしくない、メンタルな悩みあり、といった生徒が自分を取り戻す。それも保健室の日常なのである。

「こへは来ないに越したことはないけれど、どうしても、という時は無理せず頼って欲しいと思います。それぞれ何かの救いを求め、教室とは違う居場所を求めているのではないのでしょうか。年頃の子どもたちなので、デリケートな内面への気遣いも欠かせません。そして笑顔や本来の姿が見えてきたら『行ってらっしゃい』と、送り出してあげるよ

うにしています」

あたりの山に残雪が輝く春、はやはやの養護教諭として赴任した。新学期の健診は、生徒一人一人の顔と名前を覚えるチャンス。高校総体には、救急係として同行した。3回戦まで勝ち進んだ夏の高校野球も忘れられない思い出で、救急ボックスを持参して全校応援のスタンドで声をからした。

さらに、薬物乱用の防止に向けて啓発に努めたり、保健講話の企画・実施に奔走したり、というように養護教諭の役割の広さを実感した1年だ。

「すこやかに生きる知恵と術と心構えを伝えることが、私なりに抱く職業像です。まだ勉強の連続ですが、これが天職だと信じているから頑張れます」

「こんにちは!」と、来訪者への挨拶が聞こえる。全校生徒200名あまりの学校で、佐竹さんが時々元気と幸せの種は、すくすく育っているようだ。